# 86. IgA腎症と非薄基底膜病の鑑別に血清IgA値や血清IgA/C3比が有用であるかに関する後ろ向き研究

## 研究の概要

自覚症状がなく尿検査で血尿と蛋白尿を認める患者さまは腎生検検査を受けないと病名が診断できません。もし病名がIgA腎症と診断されたなら、扁桃摘出手術が治療となります。「IgA腎症ガイドライン」には、血液検査でIgA腎症と診断できる可能性のある検査について記載されています。しかしその検査だけでIgA腎症と診断してしまうと 誤診につながる可能性があり、やはり腎生検検査が必要です。このことを証明するための研究です。

## 研究の目的と方法

2010年から2017年に腎生検で非薄基底膜病と診断された、血尿と軽微な蛋白尿を呈して自覚症状のない患者さま7名と、2014年から2017年の間にIgA腎症と腎生検で確定診断された、血尿と軽微な蛋白尿を呈して自覚症状のない患者さま8名の検査データを調査して、腎生検をぜずにIgA腎症であるかIgA腎症ではないことを診断することができたかを調査 します。

## 本研究の参加について

該当する患者さまの電子カルテ上の情報を、当方で集計させていただきますので、改めてアンケートに答えていただ いたり、同意書をいただいたりすることはございません。ご参加の御意志をあらためて確認することもございません。 個人情報はすべて匿名化して報告させていただきますので、個人のプライバシーは守られています。
万一、この調査に参加したくない患者さまがいらっしゃいましたら、当方にご連絡いただきますと集計からばずさせていただき、調査を中止させていただくことが可能です。ただし論文の報告後は集計からばずすことは現実的に不可能になります。

## 調査する内容

年齢、性別、血清BUN値、Cr値、eGFR値、尿潜血、尿中RBC数、赤血球形態、P/C比、IgA値、C3値、IgA/C3比、 U-NAG、β2MGといった検査項目を調査します。

## 調査期間

研究対象期間： 2010年1月1日～2017年12月31日まで
研究実施期間：倫理委員会承認後～2021年3月31日まで

## 研究成果の発表

結果を医学英語論として報告させていただく予定です。

## 当院における研究責任者

臨床研究部長　富田正郎

## 問い合わせ先

臨床研究部長　富田正郎
TEL: 096-353-6501